

1 取組の概要及び成果等

(1) 取組の概要

① 体験活動におけるキャリア教育との関連

職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み—職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から—を活用し、それぞれの体験活動において、どのような力を付けたいのかを分析し、視点を明確にして体験活動を行う。

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| I 人間関係形成能力 | ①自他の理解能力 | ②コミュニケーション能力 |
| II 情報活用能力 | ①情報収集・探索能力 | ②職業理解能力 |
| III 将来設計能力 | ①役割把握・認識能力 | ②計画実行能力 |
| IV 意思決定能力 | ①選択能力 | ②課題解決能力 |

② 本校の取り組み

【全学年共通実践】

(ア) 自然体験学習《キャリア教育との関連 I—①②, III—①》

5月に保護者の協力を仰ぎ、ボランティア奉仕作業を兼ねて登山を実施し、友達のよさを発見することができた。（1年雨引山, 2年加波山, 3年筑波山）

(イ) マナーアップキャンペーン清掃活動《キャリア教育との関連 I—①, II—②, III—①》

各学年の計画に基づいて学校近隣の清掃活動実施し、奉仕の精神を養った。

（1年谷貝方面, 2年樺穂方面, 3年りんりんロード）

【第1学年の実践】

(ア) インスタントシニア体験《キャリア教育との関連 I—①②, II—②》

市福祉協議会より2名の講師を依頼し、体育館内7か所のブースに分けて実施した。

(イ) 花づくり・料理コンテスト《キャリア教育との関連 I—①②, II—②, III—①, IV—②》

真壁高校との交流事業でプランターパンジーづくりや料理コンテスト（副菜づくり）を実施した。

(ウ) 宿泊学習スキー体験《キャリア教育との関連 I—①②, III—①》

2泊3日という行程で実施。集団生活の中で豊かな人間関係を築きながら自己の成長を果たすことができた。

【第2学年の実践】

(ア) 校外体験学習《キャリア教育との関連 I—①②, II—②, III—①, IV—②》

夏休み中に実施した職場体験をもとに、他の職種や地域に視点を広げ自己の進路に対して比較検討する力を養うことができた。

(イ) 立志の集い《キャリア教育との関連 I—①②, II—①②, III—①②, IV—②》

テーマ「今を生きる～優しい心 はばたけ未来～」のもと、青少年育成市民会議真壁支部と市教育委員会の協力を得て実施し、今の自分を見つめ将来について考えることができた。

【第3学年の実践】

(ア) 修学旅行《キャリア教育との関連 I—①②, III—①, IV—①②》

京都市内班別行動に体験活動を取り入れて実施し、あらためて友達のよさを発見することができた。

(イ) 幼稚園訪問《キャリア教育との関連 I—①②, II—①②, III—②, IV—②》

事前に幼児の発達段階について学習したため、幼児と同じ目線に立って活動することができた。

(2) 特に工夫や配慮をした事項（ねらいや位置付けなどを含めた計画、活動の場や内容、指導方法や指導者、事前・事後指導、評価等）

① 自然体験学習

昨年度まで全学年共通で実施していた加波山登山を、1学年雨引山, 2学年加波山, 3学年筑波山登山に分け学年計画で実施した。登山に際して、保護者の協力を得て空き缶やごみ拾いなどのボランティア活動を実施した。

② 校外体験学習

夏休み中に実施した学校近隣地域の職場体験の経験を生かし、他の職種や地域に視点を広げ、自己の進路に対して比較検討する力を養うことに重点を置いた。東京都内における職場体験を通して、都会と地方の職種の違いや働く人々の様子について知ることができた。

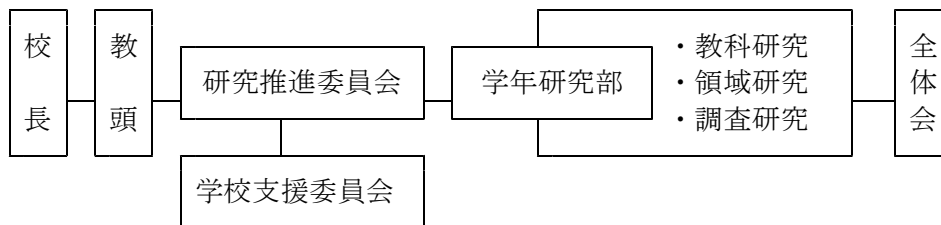
(3) 成果等

- 生徒自らが企画・立案した体験活動を実施したことにより、「体験」が「経験」となってさらに次の体験活動に生かされ、生徒間での話し合いがより綿密に行えるようになった。
- 体験活動を通して8割の生徒が「自分のよさや個性を発揮することができた」と答えていることから、満足感や充実感を獲得することができた。
- 日々の全教育活動の中で、より高い意識をもって問題解決に取り組み、実践していこうとする姿勢が見られるようになった。
- 約9割の生徒が、体験活動は「楽しかった」「まあまあ楽しかった」と答え、活動後に友達とコミュニケーションを図る機会や遊ぶ機会が増えたことから、体験活動を通してよりよい人間関係が生まれ、学級の一員としての所属感や自己有用感、自己表現力を養うことができた。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

① 学校の推進体制



② 活動の概要

自然体験学習の際には、広く保護者に対してボランティアを募集し、空き缶拾いやごみの収集作業に協力を仰いだ。また、生徒と同伴で登山に参加した保護者もおり、支援体制の一翼を担った。

立志の集いでは、パネルディスカッションのパネリストとして保護者4名に参画していただき、テーマにせまる活発な話し合いが展開できた。

(2) 成果等（推進体制の充実、関係者との連携・協力の観点から）

自然体験学習では、保護者の協力を仰ぐ際に文書にて参画募集し、どんな協力ができるかを記入していただいたので、活動当日の保護者の配置等明確にして計画立案することができた。また、PTA会長以下本部役員の方々が連絡調整にあたり、支援体制をより円滑に進めることができた。

3 今後の課題と改善点

- 体験活動を実施する際に、計画の段階で、体験活動そのものに価値があるものと、体験活動の準備や事後の活動に価値があるものについて分析し、生徒の変容にどうかかわってくるかを検証する必要がある。
- 中学校における体験活動は、キャリア教育にかかわる内容が多く見られるため、キャリア発達という観点からの各学年の年間指導計画の見直しや3ヶ年を見通した指導計画の作成が必要である。
- キャリアプログラム4領域の能力の視点からみて、体験活動を通してどのように生徒が変容したのかを具体的にとらえる評価方法を考慮する必要がある。